



<https://language.sakura.ne.jp/kjlt/index.html>

文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)K-JLTP

第2回公開シンポジウム

VUCAの時代における日本語教師養成と教員研修

—変わるものと変わらないもの—

ごあいさつ

文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)K-JLTP は、2024 年度より活動を開始しました。事業 2 年目の総括として、第 2 回公開シンポジウムを開催いたします。外国人労働者数の急増、生成 AI の急速な普及など、日本社会を取り巻く環境は激変が続いています。VUCA、すなわち、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)が当たり前となった社会の中で、近畿の日本語教育は何を目指していくべきなのでしょうか。日本語教師教育者、日本語教師、日本語教育ボランティア従事者、日本語教師志望者、日本語教育専攻学生・院生、また、日本語教育に関心を持つ地域の方々など、幅広い皆様とこの問題を一緒に考える一日といたく思います。多数のご参加をお待ちしています。

記

日時：2026年3月21日(土) 09:30(開場)～17:00

会場：ヒルトンプラザウェスト8階会議室(大阪府大阪市北区梅田2丁目2-2) JR 大阪駅桜橋
出口徒歩 2 分／メトロ西梅田駅 4B 出口直結／阪神大阪梅田駅西口徒歩 1 分

参加申込：要事前申し込み(参加費は無料)

申し込みリンク <https://forms.gle/DYZS6nGiUYLeEhN69>

照会先：神戸大学国際文化学研究科内 K-JLTP 事務室
kjltinfo@gmail.com



プログラム

第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

09:40-11:10 「域内大学の学生・院生による日本語教育の学びの成果発表会」

発表者:近畿圏の大学生・大学院生等(全22組31名)

0940-セッションA 8件, 1010-セッションB 7件, 1040-セッションC 7件

11:15-12:30 「ようこそ日本語教育の世界へ:日本語学校の先生方による学生向けスペシャルトークⅡ」

司会 内田さつき氏(コミュニケーション学院)

第1部:若手教員が語る日本語教師の仕事の「リアル」

講師:瀬川愛氏(大阪YMCA学院)、杜瑞凌氏(南大阪国際語学学校)、中島薫氏(友ランゲージアカデミー)、中村堯氏(コミュニケーション学院)、横山結衣氏(京都民際日本語学校)

第2部:採用担当者が語る日本語教師採用の「リアル」

講師:岸田久美子氏(京都民際日本語学校)、野口涼子氏(大阪YMCA学院)、山岸宏明氏(友ランゲージ大阪校)

12:30-13:00 昼食休憩／情報交換会(※会場規定により、弁当の持ち込みはご遠慮下さい)

第2部 研究協議会

13:00-13:25 開会・拠点事業 2025年度活動報告

「事業2年目を振り返って:協働を縦横に広げる」

報告者:拠点事業各部会世話役

13:30-14:10 文部科学省講演

講師 降旗 友宏氏(文部科学省総合政策局日本語教育課長) 「日本語教育政策の展望と日本語教師養成・研修推進拠点への期待」

14:20-15:20 「近畿の日本語教員養成最前線:Good Practices の共有を目指して」

司会 松本 剛次氏(大手前大学)

講師 柳引 祐希子氏(大阪教育大学)「大阪教育大学の養成課程の特徴」

長谷川 哲子氏(関西学院大学)「関西学院大学大学院の養成課程の特徴」

野々口 ちとせ氏(甲南大学)「甲南大学の養成課程の特徴」

15:30-16:30 記念講演

司会 伊藤 創氏(関西国際大学)

講師 李 在鎬氏(早稲田大学)「生成AI時代の日本語:日本語学習者・日本語教師・日本語教師教育者にとってのAIの意味」

16:30-17:00 全体討議・外部評価委員講評・閉会

評価委員:石澤徹氏(東京外国语大学)・迫田久美子氏(広島大学)・松下達彦氏(国立国語研究所)・李在鎬氏(早稲田大学)

発表要旨・講師紹介

第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

09:40-11:10 「域内大学の学生・院生による日本語教育の学びの成果発表会」

近畿地区の大学で日本語教育を学ぶ 22 組 31 名の大学生・大学院生が、養成課程での学びに基づくポスター発表を行います。発表は、A:学習成果発表、B:学習体験発表、C:研究発表の 3 つのタイプに分かれます。ぜひご観覧の上、ご助言やご質問をお願いいたします。

セッション I (0940~1010)

[1] 佐保桃江(大手前大学現代社会学部現代社会学科 通信学部・学部4年生)

【学習成果発表】「私が学んだ行動中心アプローチ」

大手前大学通信の社会言語学の授業や外部で受講した日本語教育実習で「日本語参照枠」の考え方を学びました。中でも Can do や行動中心主義の話が印象的でした。私なりの見解と今後の展望についてお話しします。

[2] 釜江美波(関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科・修士 2 年生)

【学習体験発表】「オーストラリアの日本語教室」

昨年、オーストラリアにて、児童を主な対象としているひまわり日本語学校と大人の非日本語母語話者を対象としている Japanese Language Club にて、日本語ボランティアを経験した。それぞれの日本語教育環境についてまとめる。

[3] 友永彩弥音(大阪大谷大学文学部日本語日本文学科・学部 2 年生)

【学習成果発表】「タイ・インドネシアへのオンライン授業～2 年間での学びと気づき～」

1 年生に受講した日本語教育学概論をもう一度受けて得られた学びと気づきについて行った授業内容とともに発表します。

[4] 田中倫(大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻・修士 2 年生)

【学習体験発表】「タイ・チェンマイ大学日本語学科における日本語教育インターフィップから得た気付き」

インターフィップ中の活動内容を報告し、外国語として日本語を学ぶ大学生たちとの関りを通して得た気付きを紹介した上で、その経験を踏まえて将来目指したい教師像を述べる。

[5] SARULA(神戸大学大学院国際文化学研究科・修士 1 年生)

【学習成果発表】「市場化社会における第二言語学習の動機づけについて：個人の体験と動機づけ研究の学びをふまえて」

養成課程の授業で学んだ動機づけ研究の枠組みを起点として、個人の体験もまじえながら、現代社会における第二言語学習の問題を再考する。

[6] 岡真碧・木村陽葵・栗林美愛・野原悠・古谷悠菜・諸岡ひなた(追手門学院大学文学部歴史文化専攻・学部 1 年生)

【学習体験発表】「にほん GO カフェ—日本語教師志望者と留学生の交流—」

大学で行った留学生対象の日本語支援ボランティア活動について、活動の内容や課題、今後

の展望を発表します。

[7] フアン タイン ヒエン(甲南大学大学院人文科学研究科 修士1年生)

【研究発表】「ベトナム私立大学における日本語教育と人間性発達に関して—職業志向的教育から人間性重視の教育へ—」

本研究は、ベトナム私立大学における日本語教育を対象とする。経済や就職を重視する教育の中で、学習者が抱える経験や心理的負担に注目する。人間的成长を重視した日本語教育の可能性を検討する。

[8] 有田采未(関西国際大学国際コミュニケーション学部 学部4年生)

【学習体験発表】「インドネシア・中部ジャワ州の日本語ボランティア体験発表」

インドネシアの中部ジャワ州にあるチラチャプと言う町の日本語学校へ日本語教師のボランティアとして2度行きました。そこでは、日本で働くための日本語を指導しました。

セッション2(1010~1040)

[1] 山本夕陽・グエンティム(大阪産業大学国際学部国際学科・学部3年生)

【学習成果発表】「外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援 一プロジェクト演習の授業から学んだこと—」

プロジェクト演習の授業では、「こどもひろば」という外国にルーツを持つ子どもたちに日本語を教える活動を行いました。そこで、親の事情により来日した子どもたちの実情を学びました。さらに、子どもの数の増加にともない支援する側が抱える課題についても知ることができました。

[2] 多鹿希輝(武庫川女子大学文学部・学部4年生)

【研究発表】「算数の文章題における文脈理解を促す対話の分析:外国につながる児童が在籍する学級の事例から」

算数の文章題における文脈理解を促すための方略について、研究を実施した。特に、外国につながる児童が在籍する学級での事例を取り上げ、対話の分析を行った。

[3] 李 雪琦(LI XUEQI)(甲南大学大学院人文科学研究科・修士1年生)

【研究発表】「対話に基づく批判的言語学習における非母語話者教師の役割」

本研究は、フレイレとバフチンの対話に関する理論を基盤とする。いかなる対話活動を通じて「他者の声」としての日本語が、学習者自身の思考・感情・経験を自分なりに表現し得る言語資源となり得るのかを検討する。さらに、教師(とりわけ非母語話者教師)の対話における言動を分析し、その役割を明らかにする。

[4] 堤晴菜・前田紗映(大阪教育大学教育学部教育協働学科多文化リテラシーコース・学部4年生)

【学習体験発表】「大阪府内の地域日本語教室で行った教育実習についての報告」

大阪府内の地域日本語教室で、90分×2回の教育実習を行いました。生活者としてくらす外国人に日本語を教えることの難しさと面白さについて学んだことを発表します。

[5] 高橋颯希(大阪大谷大学文学部・学部3年生)

【学習成果発表】「地域における多文化共生イベント「ミニ万博 in 金剛」の実践と報告」

学生主体で企画・運営した多文化共生イベント「ミニ万博 in 金剛」の実践を報告し、アンケート結果から効果と課題を明らかにする。

[6] 岡田名清(関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科)

【研究発表】「中上級学習者のピア・レスポンスにおけるやり取り—雑談に着目して—」

中上級学習者を対象としたライティング授業にピア・レスポンスを導入し、そのやり取りでの雑談の特徴を明らかにした。また、やり取りでの雑談がプロダクト第2稿に及ぼす影響についても考察した。

[7] 廉沢奇(神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程・2年生)

【研究発表】「日本語教育におけるオノマトペ誤用の分類および診断フレームワークの提案—コーパス産出に基づく網羅的分析—」

本研究は、今後のオノマトペ誤用分析のために、800例の学習者の産出に基づく階層的誤用分類を提案した上で、重なりを防ぐ誤用診断のフローチャートを考案した。これにより、オノマトペ誤用分析の正確性を向上させると期待される。

セッション3(1040~1110)

[1] 植田波音・若狭悠世(追手門学院大学文学部・学部3年生/2年生)

【学習体験発表】「追手門学院大学における海外実習について」

追手門学院大学の日本語教師養成プログラムで行っている韓国での海外実習について報告する。

[2] LYU YINGTONG(神戸大学大学院国際文化学研究科・修士1年生)

【学習成果発表】「同じ日本をどう描くか 一日中初級日本語教科書におけるジェンダー表象の比較」

本発表は、日中の初級日本語教科書におけるジェンダー表象に注目し、登場人物・生活場面・視覚情報の分析を通して、同じ日本社会がどのように描かれているのかを比較的に検討する。

[3] 藤本莉穂・西村未亜(大阪大学外国語学部日本語専攻・学部4年生)

【学習体験発表】「日本学生支援機構大阪日本語教育センターでの教育実習を経て」

大学の授業の一環として参加した日本語教育実習での活動内容を報告し、実習中に得た学びや気づき、反省に関する発表を行う。

[4] 山内 梨香(大手前大学現代社会学部現代社会学科通信教育課程・学部4年生)

【学習成果発表】「日本語教員養成課程での学び・研究・そして未来へ」

日本語教員を志した原点から、大学での学び・実習・研究で培った力を振り返る。社会人として通信制大学で世界中の仲間と学び合い、視野を広げてきた成長の軌跡を示す。教育×イノベー

ションで社会に新たな変化を生み出す一歩であることを願う。

[5] 浅井未来（桃山学院大学国際教養学部・学部3年生）

【学習体験発表】「日本語教員養成課程での学びと学外のインターンシップについて」

大学での学びを通して得た日本語教師の仕事のイメージと、日本語学校で働いてみてはじめて見えた“教える”以外の仕事について。

[6] 片岡真理子（大阪大学人文学研究科日本学専攻応用日本学コース・修士1年生）

【学習体験発表】「複数言語環境で育つ子どもたちを支援する現場に携わって」

大阪府立高校「粹校」での非常勤講師や地域コミュニティーでのインターン活動を通して、子どもたちや現場の先生方から学んだことと、それに伴う自身の変化について発表します。

[7] 駕田直子（甲南大学大学院人文科学研究科・修士2年生）

【研究発表】「接触場面における日本語非母語話者の繰り返し発話」

接触場面における日本語非母語話者の繰り返し発話にはどのような特徴がみられるか。先行発話への応答として現れる繰り返し発話を観察し、その形式や機能を明らかにする。

第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

11:15-12:30 「ようこそ、日本語教育の世界へ —日本語学校の先生方による学生向けスペシャルトークⅡ—」



司会 内田さつき氏（コミュニケーション学院校長）

略歴：2001年よりコミュニケーション学院勤務。教員養成や『読む力』シリーズの出版に関わる。文部科学省委託主任教員研修実施委員、日本語教育学会チャレンジ支援委員、ビジネス日本語研究会幹事。外部の多様な機関と連携しながら、学生が社会に主体的に発信できる力を養うための授業実践を行っている。



【第1部講師】瀬川愛氏（大阪YMCA学院講師）

略歴：ベトナムで2年間、日本語教師として勤務。帰国後、2017年2月より日本語学校の事務職員として日本語教育に携わる。2022年10月より大阪YMCA国際専門学校にて非常勤講師を務め、のちに同校の専任講師となる。2025年4月より現職。



【第Ⅰ部講師】 杜瑞凌氏(南大阪国際語学学校講師)

略歴:台湾出身。大学では日本語学科を専攻。卒業後、日本の大学院に進学し、日本語教育を専攻。2025年4月に大学院を修了し、現職。



【第Ⅰ部講師】 中島菖氏(友ランゲージアカデミー大阪校講師)

略歴:2021年養成講座修了後、大阪市の外国にルーツを持つ児童生徒への日本語協力者として2年、ワーキングホリデーでオーストラリアの日本語学校で1年、帰国後、非常勤講師としてヒューマンアカデミーで働きながら、日本語協力者、流通科学大学の留学生別科にて試験対策講座を担当。2026年1月より友ランゲージアカデミー大阪校にて専任講師として勤務。



【第Ⅰ部講師】 中村堯氏(コミュニカ学院非常勤講師)

略歴:2024年神戸大学大学院国際文化学研究科博士前期課程修了。修了後よりコミュニカ学院に非常勤講師として勤務。現在は神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程で研究に従事。あわせて、文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)コーディネーター、京都芸術大学大学院日本語科目を担当。



【第Ⅰ部講師】 横山結衣氏(京都民際日本語学校講師)

略歴:京都文教大学総合社会学部卒業。在学中に副専攻として、日本語教師の資格を取得。在学中は京都市伏見区向島で外国籍児童への日本語ボランティアに関わる。新卒社員として令和6年4月に京都民際日本語学校に入社。現在は学習者の進路支援、初級~上級クラスの授業を担当。



【第Ⅱ部講師】 岸田久美子氏(京都民際日本語学校教務部長)

略歴:2011年4月よりタイの語学学校に専任講師として勤務。帰国後 2012年4月より非常勤講師として京都民際日本語学校に勤務 2013年10月同校専任講師となる。留学生の授業を担当しながら、同校日本語教師養成講座の授業も担当。2023年10月より現職。



【第2部講師】野口亮子氏(大阪YMCA学院副主任)

略歴:2012年4月より非常勤講師として大阪YMCA学院に勤務。2015年4月より大阪YMCA国際専門学校日本語学科にて専任講師として主に進学希望の学生を担当。2025年4月より現職。



【第2部講師】山岸宏明氏(友ランゲージアカデミー大阪校教務主任)

略歴:2010年より日本語学校で非常勤講師を始める。2014年に早稲田大学日本語教育研究科修士課程修了。2015年から関東の大学に所属し、他大学の非常勤講師を兼任しつつ、初年次教育や留学生の予備教育に従事。認定日本語教育機関の新規校開設を機に、友ランゲージアカデミーに所属を変え、2024年より現職。

第2部 研究協議会

| 13:00-13:25 近畿拠点 2025年度活動報告

「事業2年目を振り返って:協働を縦横に広げる」

報告者 拠点事業各部会世話役

【概要】近畿拠点に設置された4部会(関連機関の連携強化を目指す「連携部会」、教員向け研修の在り方を考える「研修部会」、地域日本語教師養成の実態を探る「調査部会」、地域日本語教育支援の在り方を考える「支援部会」)における1年間の活動を報告します。また、新年度の新規の取り組み予定について担当者より概要を報告します。

| 13:30-14:10 文部科学省講演

講師 降幡 友宏氏(文部科学省総合政策局日本語教育課長) 「日本語教育政策の展望と日本語教師養成・研修推進拠点への期待」



【概要】文部科学省より講師をお招きし、文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業の趣旨や、拠点事業への期待について講話をいただきます。フロアからのご質問も歓迎いたします。

【講師略歴】平成13年4月文部科学省入省。生涯学習政策局、文化庁、スポーツ・青少年局、初等中等教育局、大臣官房、研究開発局を経て、平成23年4月長崎県教育委員会生涯学習課長、文部科学省情報教育課課長補佐、内閣官房日本経済再生総合事務局参事官補佐、教育課程課主任学校教育官、研究振興局学術機関課学術研究調整官などを経て、令和2年4月から山梨県教育委員会理事。同県教育次長を経て、令和5年4月から山梨県教育長。令和7年4月から現職。

14:20-15:20 「近畿の日本語教員養成最前線:Good Practices の共有を目指して」

櫛引祐希子氏(大阪教育大学)「大阪教育大学の養成課程の特徴」



【概要】本発表では、本学の養成課程の概略を示したあと、特徴ある取り組みとして、日本人学生と留学生による協働学習、国語教育との融合、多様な教育現場での教育実習等を紹介し、多文化共生社会の実現・持続に積極的に関わる教育人材の育成についてお話しします。

【講師略歴】大阪教育大学教育学部教育協働学科グローバル教育講座日本語教育コース准教授。東北大学大学院文学研究科博士課程修了(Ph.D)。2003年から2年間、韓国の新羅大学で日本語講師として働いていました。2018年から大阪教育大学で日本語教員養成、国語教員養成、留学生教育に携わっています。方言研究者として、多文化共生社会における言語の多様性に関心を寄せています。

長谷川哲子氏(関西学院大学)「関西学院大学の養成課程の特徴」



【概要】本発表では、本学の養成課程の概略を示したあと、特徴ある取り組みとして、(1)複数プログラムの設置、(2)前期課程としての専門性、(3)実習科目の取り組み、の3点を取り上げて報告したい。

【講師略歴】関西学院大学経済学部・言語コミュニケーション文化研究科教授。立命館大学日本語常勤講師、大阪産業大学准教授として、主に学部留学生の日本語教育に従事。2011年に関西学院大学に着任後、学部留学生の日本語科目や言語コミュニケーション文化研究科の日本語教育学領域の科目を担当。

野々口ちとせ氏(甲南大学)「甲南大学の養成課程の特徴」



【概要】本発表では、本学の養成課程の概略を示したあと、特徴ある取り組みとして、(1)全学部生が履修可能な開かれた課程、(2)国内外から選択できる教壇実習、(3)日本語学習支援ボランティア「あおぞら」との接続、といった点を取り上げて報告したい。

【講師略歴】甲南大学文学部教授。首都圏で大学の留学生向け日本語教育と地域日本語教室の運営に携わる。お茶の水女子大学大学院修士課程修了後、同大学文教育学部で助手・講師を務め、その後、博士後期課程を修了。城西国際大学国際人文学部准教授を経て、2021年に甲南大学に着任。現在、登録日本語教員養成機関の主任教員として養成課程を統括し、登録実践研修機関では主たる担当者として教育実習の指導を担っている。

15:30-16:30 記念講演「生成AI時代の日本語：日本語学習者・日本語教師・日本語教師教育者にとってのAIの意味」

講師：李在鎬氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科教授）



【概要】生成 AI は日本語を生産する道具にとどまらず、日本語使用の環境（言語の生態系）そのものを変える存在として捉えられます。したがって本講演では、AI の是非を論じるのではなく、生成 AI が普及した学習環境のもとで、学習者の自律性、評価の妥当性、そして教師の専門性をいかに再定義できるかを検討します。具体的にはライティング教育および読解教育の事例を紹介しながら、「AI にできないこと探し」ではなく、AI を前提とした日本語教育の新たな専門性と学習環境のデザインを提案します。

【講師略歴】早稲田大学 教授。博士（人間環境学・京都大学）。専門は計量言語学・コーパス言語学・日本語教育・応用言語学。情報通信研究機構、国際交流基金、筑波大学准教授を経て、2016年より現職。主著に『AIで言語教育は終わるのか』『データ科学×日本語教育』『ICT×日本語教育』。AI 活用と言語教育研究に取り組む。